

Y.M.さん（ノルウェー2019-2020）

ノルウェーへ交換留学をしてから約 10 カ月以上が過ぎ、留学生活は半ばでに突如終わってしまいました。が、留学生活での出来事等を報告させていただきたいと思います。

まず、わたしの場合、日本を出発した段階でも、まだホストファミリーが決まっておらず、見つかるまで、まずは1か月だけある家でホームステイをすることになり、場所は首都オスロから近いテレマーク州のノトデン市でした。

テレマークとは、スキーのジャンプの「テレマーク」の語源となったくらい、スキーの盛んな地域で、ノトデン市は人口約 12,000 人の小さな地方都市という感じのところです。

ホームステイ先は Hjukse 夫妻の家で、子どもたちはみんなすでに独立していたので、夫妻と私の3人暮らしでした。ホストファーザーは大学の先生、ホストマザーは英語の先生だったので、家庭内は英語で会話ができました。

聞くとところによると、家庭内で「英語は禁止」と言われる留学生もいるということだったので、これはラッキーでした。しかし、せっかくノルウェーに来た以上は、ノルウェー語も話せるようになりたいと思いました。

休日は、ハイキングに連れて行ってもらいましたが、ノルウェーで言うハイキングは、日本でイメージするハイキングとはまったく違って、登山に近いものでした。したがって、何回か、遭難しかかったことがあるくらいでしたが、それでもノルウェーの美しい自然の中で過ごすのは、素晴らしい経験になりました。

こうしてホームステイが始まるのに併せて、地元の高校への通学も始まりました。高校は地元のノトデン高校に入ることになりました。

ノルウェーでの生活も1か月を過ぎようとしていた頃、ようやく新しいホームステイ先が決まりました。同じ地域内だったので、高校は転校しなくて済みました。新しいステイ先の Gowland さん一家は、これまでの家と同様に、子どもたちはすでに独立していたので、夫妻と私の3人での生活となりました。夫妻は武道をたしなんでおり、居合道などに毎日のように取り組んでいて、私も参加していました。

留学期間は終わってしまいましたが、向こうで培った価値観や築いた人間関係は消えることなく、今も私を支えてくれるかけがえのないものとなりました。

留学は、今まで目を向けてこなかった物事に向き合い、それを理解することで

私たちに大切なものを授けてくれる。抽象的ですが、交換留学を終えた今はそう考えるようになりました。

※新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、AFS 留学生は、プログラム中止し、全員が帰国することになりました。
Y.M.さんも3月に帰国しました。